

緑化通信

2023 10月25日 (年6回25日発行) 第501号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階 TEL:(03)3586-7361 FAX:(03)3586-7577 URL: https://www.uekior.jp/ E-mail: honbu@uekior.jp 購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円



環境に配慮するため FSC®森林認証紙を使用しています。

令和5年度 都道府県別緑化樹木 供給可能量調査 結果報告

（一社）日本植木協会

（二財）日本緑化センター 理事 瀧 邦夫

調査結果の概要

2023年度の供給可能量は3,665万本となり、対2022年度比3,767万本(97.3%)と5年連続の減少となっている。形態別内訳は、グラウンドカバープランツ(GCP)が最も多く全体の5割弱(48.1%)、次にコンテナ樹木が2割弱(18.1%)の順となる(図1)。

木常緑樹が2割弱(18.1%)の順となる(図1)。露地栽培物のシェア130.8%に対し、コンテナ栽培物のシェアは69.2%、3対7を維持している。高木木数の形態別内訳は、常緑広葉樹5、落葉広葉樹3、針葉樹2の割合を占めている。GCPでは、タマリユ324万鉢(全体の34%)、オオムラサキツツシ105万鉢(同16%)、ヒラドツツシ82万鉢(同12%)、コグマザサ113万鉢(同12%)、キンメツゲ29万鉢(同4%)、ボックスウッド22万鉢(同3%)が上位5樹種を構成している。サツキは2018年度より200万本台へ供給力を下げている。

また、2021年度の元請完成工事高を発注者別にみると、公共は1,084億円(46.7%)、民間は1,239億円(53.3%)となり、民間の発注額が公共を6.6ポイント上回っている(図3)。

なお、造園工業を含む総合工業8業種全体の完成工事高は前年度に比べわずかに0.4%減少している。完成工事高の減少が際立っている。公共工事の全体的状況

を、「公共工事前払金保証統計」(北海道・東日本・西日本建設業保証)により検討する。2022年度の件数は2,241,197件、前年度に比較し3.7%の減、請負金額は13兆9,937億円、前年度に比べ0.4%減となっている。発注者別では、市区町村が最も多く件数で47.8%、請負金額で34.7%を占めている。2番目は都道府県が各々40.8%、30.0%となる。地域別には、関東のウェイトが大きいく件数で21.7%、請負金額で26.1%を占める。

造園植栽工事に結びつきの強い公園および道路工事の請負金額について、道路部門は3兆8,356億円、対前年度比93.9%と減少、公園部門は5,138億円、対前年度比109.6%と増加している。

「全国屋上・壁面緑化施工実績調査」(国土交通省)によると、2021年に約14.4haの屋上、約2.8haの壁面が新たに緑化された。これまでの累積で、屋上は約578ha、壁面は約114haが整備された。建物用途別にみると、建物用途別にみると、累積で屋上は住宅/共同住宅(113.4ha、19.7%)、教育文化施設(75.4ha、13.1%)、商業施設(76.8ha、13.3%)が上位を占めている。壁面は商業施設(31.9ha、28.0%)、工場・倉庫(17.9ha、15.7%)、教育文化施設(12.3ha、10.8%)の順となる。

植木の植樹は昔、四里五里と云い、凡そ20km以内の材料を用いていたことから地域ごとの自然の特色が緑化に活かされていました。國忠氏は地域性種苗で緑化

を、「公共工事前払金保証統計」(北海道・東日本・西日本建設業保証)により検討する。2022年度の件数は2,241,197件、前年度に比較し3.7%の減、請負金額は13兆9,937億円、前年度に比べ0.4%減となっている。発注者別では、市区町村が最も多く件数で47.8%、請負金額で34.7%を占めている。2番目は都道府県が各々40.8%、30.0%となる。地域別には、関東のウェイトが大きいく件数で21.7%、請負金額で26.1%を占める。

図-1 形態別の供給可能量(単位:千本・鉢) [2023年度:36,648千本・鉢]

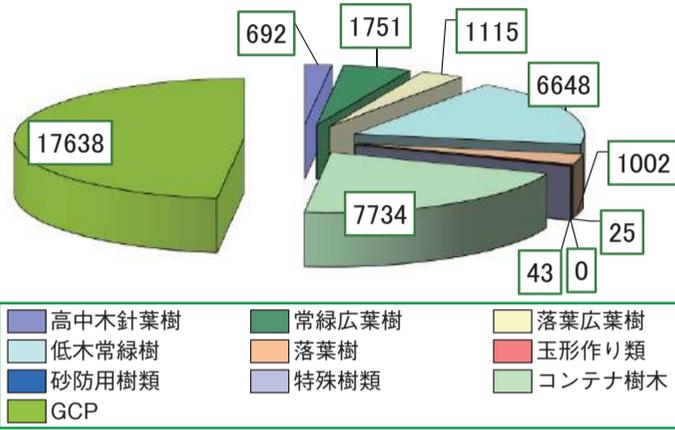


図-2 露地・コンテナ栽培の推移(単位:千本・鉢)

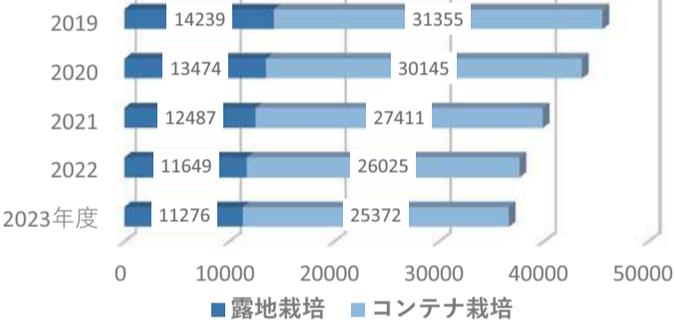
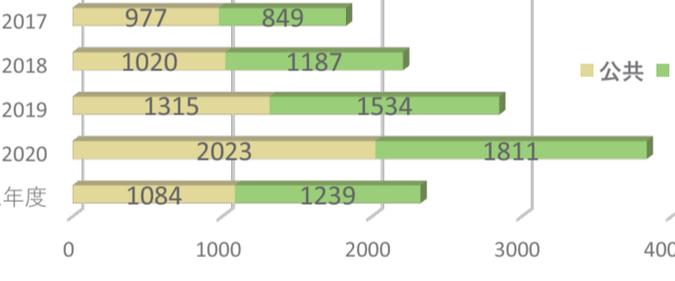


図-3 発注者別元請完成工事高の推移(単位:億円)



造園学会全国大会フォーラムで 國忠征美委員長が講演

（公社）日本造園学会は6月16日(土)18日、南九州大学都城キャンパス(宮崎県都城)にて全国大会を開催しました。大会プログラムの一つとして、「地域性種苗の多面的価値」についてフォーラムが企画され、当協会地域性種苗適用委員会委員長の國忠征美氏(グローバルグリーン・タダ)がオンラインで登壇し、「地域性種苗の供給」について講演を行いました。

令和6年度 協会総会のご案内

開催日 令和6年1月25日(休) 会場 ホテルメルパルク広島

コンテナ部会総会

開催日 令和6年1月26日(金) 会場 ホテルメルパルク広島

青年部会総会

開催日 令和6年2月8日(休) 会場 オリエンタルホテル福岡博多ステーション

訃報

白倉 直藏 様 (白倉良尚氏のご尊父様) 白倉植物園(埼玉県) 令和5年9月8日没 享年98歳 村田 正章 様 (村田利博氏のご尊父様) (株)レコムグリーン(愛知県) 令和5年8月没 享年89歳

会員動向

社名変更 (株)野口農園(福岡県) 社名・代表者・住所・メールアドレス変更 (株)川繁園(千葉県) 川口和繁 〒289-2113 千葉県匝瑳市平木8613 kw-shige@clock.ocn.ne.jp 退会 (株)徳島県植物市場(徳島県) (有)協農園(福岡県)

賛助会員紹介

会社紹介 HP



シリーズ2 (株)アスコット

平素より、日本植木協会の協会の皆様にはたいへんお世話になっております。株式会社アスコットは昭和62年の創業以来、緑の情報発信のお手伝いをしてきました。緑のこころ、もっと良くなりたい、もっと伝えたい。」を目標に活動しています。



樹名札 B タイプ

〒231-0027 神奈川県横浜市中区扇町 2-4-5 YS ビル 201 TEL 045-222-0215 FAX 045-222-0217



設置イベントの様子



A4 ステンレスサイン

植木協会の皆様とともに、日本の植物文化や緑化推進に協力していきたいと考えております。

「緑の名札」(樹名札)は、当社の主力製品は「緑の名札」(樹名札)です。植物のこころを多くの人に知っていただくための樹名札。植木や植栽の価値を高めることができます。

また、従来の高品質シートを使用したスタンダードタイプのほか、高級アルミタイプを新発売いたしました。高級感あふれる質感は、記念樹などにぴったりで、好評をいただいております。

また、案内板(サイン)公園などの案内板や解説板、誘導柱なども当社の得意とするところです。「わかりやすく、楽しいデザイン」を心がけ、全国各地の公園や公共施設に設置されています。また、新規製作以外にも、表示面のみのリニューアルなども手掛けています。サインは緑のある空間の付加価値を高めることができます。ぜひ皆様の

以上のように、当社ではさまざまな手法で緑の情報発信のお手伝いをしております。植物のこころを多く知ってもらえることにより、植木の価値は高まります。今後、日本の植物文化や緑化推進に協力していきたいと考えております。

また、案内板(サイン)公園などの案内板や解説板、誘導柱なども当社の得意とするところです。「わかりやすく、楽しいデザイン」を心がけ、全国各地の公園や公共施設に設置されています。また、新規製作以外にも、表示面のみのリニューアルなども手掛けています。サインは緑のある空間の付加価値を高めることができます。ぜひ皆様の

また、協会さまのウェブサイトを制作もお手伝いしております。当社におまかせいただければ、ご自身で簡単に更新可能なサイトを制作いたします。インターネットに詳しくないお客様にも、わかりやすく丁寧な対応を心がけています。お気軽にご相談ください。

ブック」など、植物に関する書籍の編集協力、写真提供、全ページの制作実績があります。ほかにも一般向け植物図鑑の執筆、編集なども手掛けてきました。書籍以外にも、都市公園や観光地のパンフレットなども数多く制作しております。植木協会会員様の商品カタログ、チラシ制作などにも実績がございます。



高級アルミ樹名札

日本列島植木植物園

ナショナルプランツ コレクション*

ロシアンオリーブ

学名 *Elaeagnus angustifolia*

古川和生 古川庭樹園 (大阪府) ☎0721-93-2673

ロシアンオリーブ(別名 ホソバグミ ヤナギバグミ)は、地中海沿岸地方から西アジア、西ヒマラヤ原産のグミ科の落葉小高木です。名前にオリーブとありますが、葉の色や形がオリーブに似ていますが、オリーブ(モクセイ科)とは全く違う種類です。

春に咲く淡黄色の小さな花は香りが良く、香料として香水などに利用されてきました。夏はシルバーグリーンの美しい葉色を楽しむ事が出来ます。秋には赤い小さな実が沢山つきますが、渋みがあるので生食には向きません。ジャムなどの食品に加工されることはありますが、主に観賞用として利用されることが多いようです。グミの一種なので耐寒性、耐暑性に優れており、乾燥、潮風にも強く日本全国で栽培可能です。



*ナショナルプランツ コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

第15回環境緑化樹木識別検定 資格認定委員会を開催

令和5年8月29日(火)、協会会議室において環境緑化樹木識別検定資格認定委員会が開催されました。この資格認定委員会は7月8日(土)に実施した樹木識別検定(100種の樹木について枝葉だけを見て正しい名前を答える検定)の点数に応じて級位を認定する委員会です。今回より長年委員長を務めていたた浦井史郎氏(東京都立大学特別教授)から高梨雅明氏(一人の採点結果を検討し、級位を認定しました。今年度受検者25名の内訳は1級(80点以上)5名、2級(70点以上80点未満)4名、3級(60点以上70点未満)4名、初級(40点以上60点未満)4名、チャレンジコース(40点未満)8名



資格認定委員会の審議風景



枝葉の特徴から正答を目指す樹木識別検定

環境緑化樹木識別検定実施委員会の今年度の活動まとめ



ポイント講習会で説明を行う川原田委員長

★樹木識別ポイント講習会

6月11日(日)、会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者：54名 講師：川原田邦彦、吉澤信行、山崎隆雄、八木峰夫

★第15回環境緑化樹木識別検定

7月8日(土)、会場：東京都大田区産業プラザPiQ、受検者：25名 ★令和5年度樹木医研修 樹木識別のポイント(講義と試験)

1期10月6日(金)、会場：ホテルルートつくば 2期10月27日(金)、会場：ホテルルートつくば 講師：川原田邦彦、吉澤信行、山崎隆雄、八木峰夫

植生調査委員会

4年振りに植生アドバイザー育成講座を開催

植生調査委員会副委員長 清瀧 陽平 (有)キョタキナーセリー・大分県

はじめに、今回4年振りに植生アドバイザー育成講座を開催することができ、参加者および関係者の皆様のご協力で深く感謝申し上げます。

コンテナ部会の海外視察研修にて中村幸人先生とドイツ・ハノーファー

大学のリチャード・ポットも多くの卒業生を出しながら我々も年齢を重ねたと実感しています。さて、コロナ禍で過ぎてしまった時間を取り戻すべく新たな講師として、西野文貴博士を招きました。このセミナー



樹木の高さを計測するAコース



森林景観を調査するBコース



充実した講座にはじける笑顔

ンとビデオによる学習を取り組んでいます。今年り入れました。また、新しいモニタリング試験地と野外実習のフィールドを開拓して植生を学びやすいプログラムに進化させて開催しました。

受講生には8月よりビデオプログラムによる座学の講座を配信し、繰り返し視聴して基礎的な知識の習得をしていただきました。これまで、3泊4日だった川

場村での時間を2泊3日に短縮させ野外での実習と難解なデータ整理技術の習得に時間を割きつつ参加しやすい日程に調整することにしました。また、川場村での育成講座の翌週にオンラインによる復習とまとめの講座を開催し、これも繰り返し視聴可能になっております。受講生の理解度を高め、次への学びに繋げていけるようなカリキュラムを意識しながら



植生復元の手法を学ぶCコース

学校紹介

未来の業界を担う若者たち 沖縄県立南部農林高等学校 環境創造科

人材を以て資源となす

1. 学校の概要

沖縄県立南部農林高等学校は、沖縄本島南部に位置する豊見城市にあり、昭和23年10月1日に創立、昭和47年の日本復帰により沖縄県立南部農林高等学校と改称しました。

2. 環境創造科の概要

昭和47年に拓殖科から日本復帰に伴う学科改編で、農業土木科が設置され、平成5年に緑地工学科に学科改編、その後平成22年に現在の環境創造科に学科改編しました。



各種資格取得の風景

今年で創立76年の歴史と伝統を有する本校は、現在は食料生産科、生物資源科、食品加工科、環境創造科、生活デザイン科の5学科からなる専門高校です。農業と農業に関する専門教育を通し、自己のあり方を考え、地域に貢献できるような主体的に進路を選択できる生徒の育成や将来のスペシャリストに必要な資質・能力を育て、農業の担い手及び関連従事者、農業を支援する人材の育成に取り組んでいます。

3. 特色ある教育活動

(1) 資格取得への取り組み ①造園技能検定3級と2級への取り組み



造園技能検定3級の練習風景



造園技能検定2級の練習風景



地域交流の風景



令和4年度は、地域の小学生を本校に招き、葉脈しおり作りを行いました。カンヒザクラやリュウキュウコクタンなど8種類程度の葉を材料にしました。児童たちは、本学科の3年生の生徒に丁寧



R5農業祭の庭園作成風景

に教えてもらいながら、一生懸命自分の作品をつくるために頑張っています。材料の準備と作品の作り方の習得に2ヶ月かかりましたが、児童たちの笑顔を見るために頑張りました。

(3) 農業祭の庭園

令和4年度は、本校の最大行事である農業祭がありました。そこで3年生の緑地創造コースでは、造園施設全体を使った庭園作成をしました。テーマは「創造する庭園」として、石組みや植栽配置を生徒一人ひとりが考え、その中から良いものを選択して、一つの作品に仕上げました。農業祭では、見学者に生徒が自ら説明することができ、作り、物事への表現力の向上を見てもう喜ぶを感じました。また、その作品の写真を、今年行われた「2023 DIYライフフォトコンテスト」ガバナメントの部に応募して、見事団体賞を受賞しました。



卒業式庭園作成風景

(4) 卒業式の庭園 今年3月の卒業生に、2年生緑地創造コースが卒業式庭園のプレゼントを体育館前に作庭しました。テーマは「末永く幸せに」をテーマに、ミンサー織をイメージして、ピンコロとリュウヒゲを使いミンサー柄を作りました。作庭した生徒は作品に満足し、卒業生は感動して写真撮影をしていました。



ルポ

シリーズ 社園さん紹介

滝島園

東京都(立川市)

No.19



社長の滝島 聡さん



下段右から社長の滝島聡さんの奥様美緒さん、社長の聡さん、会長の栄次さん、会長の奥様順子さん
上段右から蔵の花屋「コトハ」の店長の浅井さん、バイトの高澤さん

儲かる農業を目指します！
社長の滝島聡さんもお父様の栄次さんも若い時にサラリーマンを経験された植木屋さん。社会を読み、人材育成等を当然のようにしている聡さん。植木屋「滝島園」さんと蔵の花屋「コトハ」さんを紹介します。

滝島さんは、青年部会の準会員制度を利用して入会されましたよね？

聡さん：「まず青年部の準会員になり、2年後に協会の正会員となりました。もともと立川市の植木屋さんとは仲よくさせて頂いていたので、入会して1年目にいきなり青年部会東京支部の会計を任せられました(笑)。お蔭で支部の役員会にも参加することが出来たので直ぐに馴染めました。」

違う業種から植木屋さんになったとお聞きしましたが？

聡さん：「私は大学卒業後にチェーン店の飲食業、父も信用金庫に10年程勤めてから植木屋さんとなり、親子代々とサラリーマン経験者です。滝島家は金融家で、両親、弟妹、叔父も金融業です。私は学生時代に日本マクドナルドでSW(スイング)マネージャーになるまで、どっぷりのめり込んで働いた影響もあり飲食業に就職しました。」

アルバイトは楽しかったのですか？

聡さん：「楽しかったですね(笑)。日本マクドナルドは、一見、単純なファーストフード店と思いがちですが、店舗の中は経営ピラミッド型で、人の動かし方、人件費コスト等の勉強をさせてくれるシステムがありました。時には5cmもの資料を読んで勉強したり、本場で研修したりと色々経験しました。お蔭で、飲食業で勤めている時はバイト時の経験が相当役に立ちました。実は、同じバイト先で妻と知り合ったのですが、今はピアノの先生や小学校の学校支援員をしながら、蔵の花屋「コトハ」も手伝ってくれています。」

バイトや企業で働いたことが、今に繋がっていることは？

聡さん：「沢山あります。経営的なことや人材の育成等は、滝島園や蔵の花屋「コトハ」でも活かしています。大それたことを言うつもりはないですが、若い時の体験や経験は、その後の人生に大きく影響します。現在は、男子大学生2名、男子高校生2名、女子高生1名のバイト生が毎週土曜と長期休みに来ています。目的は洋服が欲しいなどの単純な動機ですが、掘り取りも教えるところと出来ます。土まみれになっても楽しそうに頑張ってくれています」と言う。今度は次世代に社会勉強も含めて色々な事を伝え、教えているのでしょう。

女子高校生とはすごいですね？

聡さん：「女子高生の子は、よく知っている圃場の近くの子で、てっきり花屋でのバイトかと思っていたら、圃場の方がいいと言うので、「暑いよ、汚れるよ！」って言っても「いい」と言うのです。女子でも頑張ってくれて有難いです」と言う。彼女と植えたソヨゴも大きく育っていました。素敵な話ですね。

いつか植木屋さんを継ごうと思っていましたか？

聡さん：「そのことはずっと頭の片隅にはありました。両親からは一切強要の言葉はなかったですが、祖父母には小さい頃から死ぬほど言われて育ちました(笑)。…それも跡継ぎの家では、大事な子育て孫育て方ですね。」



圃場の一部



最寄り駅「武蔵砂川」の名称の通り、この近辺は土が柔らかくてよい土壌だそうです。

植木協会に入ったきっかけは？

聡さん：「もちろん顧客を広げようと考えました。「立川の温室の中から一歩踏み出してみたら？」と当時東京支部長さんに入会に誘われたことも大きかったです。また準会員の時に、青年部会の方たちに同年代が多くて仲間が出来たことも大きかったです。」

どのようなものを生産しているのですか？

聡さん：「ケヤキ、サクラ、ハナミズキは立川の産地形成の樹木はその火を消さないように作っていますが、他に150種類程はあります。全体に落葉が40%、常緑が30%、コニファーが20%、最近、力を入れているオージープランツ等が10%程です。」

今後の展望や目的は？

聡さん：「儲かる農業を目指すことです。儲からないから農業人口が減っているのです。待っていても展望は見えないから、自分で展望を作らなくてはいけないと思っています。当然、いいものを作っても売れなくては意味がない。この業界の商売は、人との信頼関係が大事ですから、もっと「滝島に聞けば大丈夫」と思ってくれるようになりたいです。そして、私たちは人に恵まれていますからいつも感謝です」と素敵な言葉で最後を締めくくってくれました。

ダンディなお父様にお聞きします。

息子さんがサラリーマンになることについては？

栄次さん：「私も9年間サラリーマンを経験しましたから、息子にも一般社会できちんと経験してから継ぐ気持ちがあるならと考えていました。自営業ですと、自分が天下になってしまいがちです。だから社会情勢や社交性を勉強するためにも一度は外を経験してもらいたいです。」



会長の栄次さん

息子さんは、花屋も経営されて頼もしいですね？

栄次さん：「昔は、植木、花、観葉植物とそれぞれの業界でしたが、今は1つの植栽に色々な植物を使用するので供給分担の業界の境目がなくなってきています。同時に仕入れルートも変わってきています。今後はもっと時代の変化に対応しないといけないので大変でしょうが、体に気を付けて頑張ってほしいですね」と、会話の終わりには優しいお父様の顔になっていました。素敵な親子でした。

蔵の花屋さん「コトハ」



100年の時を今も刻む古時計



祖母様の足踏みミシンが棚に

私は蔵のお花屋さんに入ったのは初めてです。どうして蔵で？

浅井さん：「蔵でお花屋さんをやらせて下さい」と、飛び込みでお願いしました。滝島園さんの前面の通りには、昔ながらの蔵が多くて、以前から「こんな蔵で花屋さんをできたらいいな」と思い描いていました。蔵は土壁なので温度が一定に保たれますし、開口部が小さいので直射日光で植物を傷めません。しかも一番いいのは、花や葉がショーケースに入っていないので、お客様が直に香りを感じて手に触れることが出来るということです。」

お店の「コトハ」の由来は？

浅井さん：「日々の生活の中にはお祝い事や記念、悔み事もあります。色々な事柄に花や葉を使って欲しいという願いを込めての「コトハ」です。」

滝島さんは花屋「コトハ」にどの様に関わっているのですか？

聡さん：「店の経営は私ですが、運営は浅井さんに任せています。僕に花のセンスはありませんから(笑)。花屋の方は浅井さんと妻とバイトさんで回しています。うちも以前から営んでいた路上での花の無人花市場をどうしようかと思っていたので、この提案にすぐに賛同しました。」

蔵にぴったりのインテリアですね！

浅井さん：「この蔵の雰囲気を壊さずマッチするよう滝島さんのお祖母様の足踏みミシン、着物の仕立て台や昔の筆筒を活用したり、明治時代の掛け時計も修理して飾らせてもらいました。私はこのレトロでノスタルジックな感じが好きです。古い建物には、生きたモノ(植物)を入れると息を吹き返します。また、春には畑で育てているサクラの枝モノがお店に並びます。蔵との相性はなんとも言えない趣になります」と言う。私もこの蔵の中に居ると、どこか懐かしい不思議な雰囲気が心地よかったです。

地方かわら版

三重県支部研修

松下 清香 (宮川森林組合・三重県)



地域性苗木植栽 (2年)



地域性苗木植栽 (12年)



スライドでの勉強会

令和5年8月3日、三重県大台町にて三重県支部研修会を行いました。今回の研修では、参加していただいた8名の方に、大台町で実施している地域性苗木生産の生産場所(大台町苗木生産協議会苗圃)、地域性苗木を使用し、苗圃についてのご様子、また情報交換ができました。2年経過した苗圃、宮川森林組合加工場(広葉樹資源の活用状況)を訪問していただきました。まず最初に、大台町苗木生産協議会の会長の苗圃を視察していただきました。大台町では地域性苗木という、その地域の近くで採取された種から苗木を育てて植栽するという取り組みを行っています。宮川森林組合を事務局として、地元の生産者11名により大台町苗木生産協議会が組織されています。生産者は種子を採取し、約3年かけて育苗、現在は約100種類、約3万本の苗木が揃っています。この場では、苗木協議会の会長にもご協力いただき、苗圃についてのご様子、また情報交換ができました。2年経過した苗圃、宮川森林組合加工場(広葉樹資源の活用状況)を訪問していただきました。次の視察場所は、その大台町の地域性苗木を植えた苗圃です。植栽地については、2箇所を視察していただきました。植栽から12年経った森と2年経った森を訪問いただき、2箇所の木の成長具合を通して長い年月をかけて元の森に戻していくこと、種から育てた苗木が森へ還るといふ流れを見ていただきました。今回



広葉樹からの蒸留水抽出

町苗木生産協議会が種から苗木を育て、その苗木を大台町内に植えて育てた広葉樹が活用できるという形が弊組合の理想です。現在では、山で採取した広葉樹の枝葉を使い精油や蒸留水を抽出したり、枝を使用して木工品や燻製チップを作ったりしています。広葉樹を活かして精油等を抽出しているのは、森林組合としては珍しく、皆様に興味を持ってもらえたことで今後の励みになりました。今回の研修会は森林組合での研修であったので、林業と苗木業という異なる業種間での意見交換ができたと思っております。また、苗木生産を行っている苗圃では詳細な生産方法などについて情報共有ができました。この度は、ご協力いただいた皆様、また遠方にもかかわらず参加していただいた皆様には心より感謝を申し上げます。また、皆様で集まれる機会を楽しみにしております。

町苗木生産協議会が種から苗木を育て、その苗木を大台町内に植えて育てた広葉樹が活用できるという形が弊組合の理想です。現在では、山で採取した広葉樹の枝葉を使い精油や蒸留水を抽出したり、枝を使用して木工品や燻製チップを作ったりしています。広葉樹を活かして精油等を抽出しているのは、森林組合としては珍しく、皆様に興味を持ってもらえたことで今後の励みになりました。

青年部会だより

福岡県・熊本県支部合同研修

青年部会九州ブロック長 福岡 陽平 (エンザイ緑販(有)・福岡県)



我々青年部福岡支部・熊本支部は、7月6〜7日に2県合同支部研修会を行いました。1日目は阿蘇地域の古閑樹苗園さん(有)大阿蘇造園さん(株)南阿蘇緑化さんを訪問しました。古閑樹苗園さんは、生産から植栽工事までを手掛ける活動が主ですが、今回は生産現場を視察させていただきました。見せていただいた圃場は山林を活用した自然樹形の庭木の生産が行われており、平地にある他の圃場と組み合わせ、両方の環境の特性を最大限活かした生産方法だと感じました。(有)大阿蘇造園さんは近年の震災や水害をきっかけとして、圃場の新しい活用の取り組みが行われています。その広大な圃場を生産場所としてだけでなく、町おこしの場所としての活用を計画されていて、新たに

この研修会当日は、梅雨時期ということもあり前日まで雨天が続き、開催できるのか心配でしたが、両県会員の思いが通じたのか当日は朝から夏空が広がり、有意義な研修ができました。1日目は阿蘇地域の古閑樹苗園さん(有)大阿蘇造園さん(株)南阿蘇緑化さんを訪問しました。古閑樹苗園さんは、生産から植栽工事までを手掛ける活動が主ですが、今回は生産現場を視察させていただきました。見せていただいた圃場は山林を活用した自然樹形の庭木の生産が行われており、平地にある他の圃場と組み合わせ、両方の環境の特性を最大限活かした生産方法だと感じました。(有)大阿蘇造園さんは近年の震災や水害をきっかけとして、圃場の新しい活用の取り組みが行われています。その広大な圃場を生産場所としてだけでなく、町おこしの場所としての活用を計画されていて、新たに



さん、(有)熊本緑化センターさんにお邪魔しました。前日の深夜から雨が降り始め、朝は土砂降りの天気でした。熊本市内から城南地域に移動する間、あまりの雨に中止も考えたほどでしたが、いざ到着すると雨も上がり晴れ間が見えるほどに回復してきたので、視察させていただきました。(株)ジーアルさんは、長らく緑化木の生産卸及び資材を取り扱っていましたが、ここ数年は、新たに個人邸を中心に、庭の植栽・設計をされています。さらに、数年前まで苗木の積み込み場だったところに昨年、カフェを思わせるような事務所兼ランニングスペースが出来上がり、道行く人の目を引く場所に生まれ変わっていました。(有)芳坂樹苗園さんはコンテナ生産を行っています。その生産本数は圧巻で、山苗を中心とした多種多様な苗が並んでいます。その管理も3兄弟で分業して作業するようで、大規模ながら、しっかり手が行き届き、生産体制が徹底されているのがわかりました。(有)大森樹芸園さんは、緑化樹の生産を行っています。

2日目は城南甲佐地域の(株)ジーアルさん、(有)芳坂樹苗園さん、(有)大森樹芸園さん、(有)熊本緑化センターさんにお邪魔しました。前日の深夜から雨が降り始め、朝は土砂降りの天気でした。熊本市内から城南地域に移動する間、あまりの雨に中止も考えたほどでしたが、いざ到着すると雨も上がり晴れ間が見えるほどに回復してきたので、視察させていただきました。(株)ジーアルさんは、長らく緑化木の生産卸及び資材を取り扱っていましたが、ここ数年は、新たに個人邸を中心に、庭の植栽・設計をされています。さらに、数年前まで苗木の積み込み場だったところに昨年、カフェを思わせるような事務所兼ランニングスペースが出来上がり、道行く人の目を引く場所に生まれ変わっていました。(有)芳坂樹苗園さんはコンテナ生産を行っています。その生産本数は圧巻で、山苗を中心とした多種多様な苗が並んでいます。その管理も3兄弟で分業して作業するようで、大規模ながら、しっかり手が行き届き、生産体制が徹底されているのがわかりました。(有)大森樹芸園さんは、緑化樹の生産を行っています。

務所前の通路にある大木のレンジ精神でした。「一度きりの人生だから、自分のやりたいことを全力でやりたい」この言葉は熊本の方々が言われていた言葉でした。震災をはじめとして、多くの変革を経験した方々の重みのある言葉だと感じました。(有)熊本緑化センターさんは先駆けで始められ、現在は、全国有数の店となっています。しかし、ここまでの道のりは一筋縄ではいかなかったそうで、在庫管理や発送までの流れなどの出荷体制は、徹底的にデータ管理を行っているからこそ実現していることでした。今回、久しぶりに熊本に伺いましたが、両県の各会員とも非常に有意義な研修になったと思います。そして研修を通して一番思ったことは、各団体のチャ



大森さんの圃場は、高木から中低木まで多くの緑化樹が植えられており、さまざまな植物園のようです。事

青年部会福岡県支部一同

青年部会

幹事・支部等合同会議開催



令和5年7月13日(水)13時から東京都銀座の全国燃料会館会議室にて、支部長合同会議を対面とリモートによって開催した。福島啓輔支部会長をはじめ、越川芳弘副支部長、植島春樹副支部長、森田圭幹事、持田瑛太郎幹事、朝岡直紀幹事、大西淳太幹事、田宮慎二幹事、福島陽平幹事、松山真一幹事、大内新太郎支部長、鈴木康之支部長、佐藤一樹支部長、矢作大介支部長、滝島聡支部長、高橋慎一郎支部長、安藤将志支部長、前野悠樹支部長、西村拓磨支部長、今里健吾支部長、久光泰輔支部長、遠山彰支部長、野付康志支部長が出席、3名が欠席、そして担当理事辰巳広之氏、事務局が出席した。

最初に各支部長が自己紹介をし、議題「今後の青年部会について」に入った。会員減少に伴う今後の青年部会運営の仕方について、支部長合同会議前にお願したアンケートの結果を確認しながら議論した。

幹事会より、令和8年度より東日本、中日本、九州の3ブロックから役員を選出し運営するという案(幹事の人数も現状の11名から9名に減らす)を提案し、各支部長さんより一人ずつ意見を頂き、幹事会の案に出席者全員から賛成を頂いた。ただし、各支部の活動については今ままで変わりなく行っていく形とし、支

連載「多肉・珍奇植物」

第4回 膨大な種類のなかにマニアを唸らせる逸品が散見される、アロエ

東京都市大学環境学部教授 飯島 健太郎



◆プロフィール
東京都市大学環境学部教授。桐蔭横浜大学工学部専任講師、同医工学部准教授を経て現職。博士(農学)。日本造園学会賞/研究論文部門受賞、東京農業大学造園大賞受賞。著書:『新しい都市緑化・ガーデニング材料/多肉植物』(ソフトサイエンス社)、『サボテン大好き』(講談社)、『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』(主婦と生活社)、『サボテン全書』(監修、グラフィック社)、『多肉植物全書』(監修、グラフィック社)など。

「医者いらず」や「ベラ」などは、あまりにもよく知られたアロエの仲間。民家の軒先などに植栽されてきたものであり、古くから民間薬や今日的には飲料、ヨーグルト、ゼリーなどに加工、添加される健康食品のほか、化粧品にも登場する。ゲーグルトレンド機能による「アロエ」「アロエ・ベラ」などの検索によっても時折ピークが見られるが、これらは健康食品などによるものと思われ、ビザールプランツとしてのトレンドではない。

アロエは長らくユリ科あるいはツルボラン科とされてきたが、近年のAPG分類体系の導入によりスキノキ科に編成された。500種類近い原種が知られており、自生地では高さ20mの大型種から、直径5~10cm程度の超小型種まで変化に富む。形態は3タイプに分類され、幹立ちのツリーアロエも含む茎が伸長して木立化するもの、アロエ・ベラや多くの小型種のように地表部で広がって丈が伸びないもの、草のようなグラスアロエといわれるタイプがある。その原産地は、南アフリカを中心に、ソマリア、エチオピア、エリトリアから地中海沿岸、マダガスカル島、アラビア半島、カナリア諸島、マスカリン諸島、ソコトラ島などに



写真① 細身の葉と鋸歯が特徴的なアロエ「ハウオルチオイデス」

及ぶ。医者いらずこと「キダチアロエ」は南アフリカ共和国、アロエ・ベラは北アフリカからアラビア半島に産する。キダチアロエは九州、瀬戸内海、伊豆、千葉など太平洋側に逸出帰化しており、正確な伝播経路は不明であるものの海からわたってきたと考えられている。渡来時期は今から5~600年前という説が有力。その利用は、健胃薬や便秘薬、解毒薬として生薬を服用したり、乾燥葉をアロエ茶として飲用したりするほか、水虫、火傷に生薬の汁を外用として利用してきた。しかしキダチアロエ以外の多種多様なアロエの最も際立った利用は観賞であろう。大小さまざまなサイズながらロゼット状で葉の色合いも多様、斑模様や縞模様、鋸歯の形態/写真①など観賞価値がある。興味深いのは戦前の名鑑に登場するようなコアな趣味家の世界に見られた種類が、一部の愛好者の世界を超えて、園芸界に広く知られるようになる先駆け的存在であったことである。星斑竜舌(Aloe greatheadii var. davyana)、千代田錦(A. variegata)写真②③、綾錦(A. aristata)、雪娘(A. pratensis)、不夜城(A. nobilis)写真④などは古くから知られるが、不夜城や千代田錦などは観葉植物として一般的に

なっている。また基本種であるにも関わらず「千代田錦」、「綾錦」、「帝王錦」など、「錦」がつく品種名があるのも特徴であり、これらに斑が入ると「~光」と名付けられるのも面白い。昨今のビザールプランツ人気に乗じて、あらためてアロエの小型種が脚光を浴びている。アロエの最小種とされている「アロエ・ディスコイグンシー(A. descoingsii)」写真⑤は小型の品種作出の片親としてしばしば利用されたが、原種やその変異なども着目されている。アロエ・ラウヒー(A. rauhii)は従前からその種そのものが持つ斑模様が魅力的であったが、これをさらに際立たせた品種「スーパースノーホワイト」写真⑥が作出されている。

アロエの多くは多肉植物の中では寒さに弱いものも多く、キダチアロエは暖地や冬季でも温かい都市部ではしばしば露地植えされているが、断続的な寒波で傷んだりすることもある。一方、ビザールプランツの対象となる小型の多くのアロエは希少性もあり温室などで風通しを図りつつ大切に栽培される。

アロエの生産体制は多様であり、キダチアロエ、ベラなどのようなハウス内外の直植えでの大量生産、観葉植物としての鉢物生産のほか、ビザールプランツとしては多肉植物専門農家による多品種少量生産が中心で小型から中型の鉢植えが流通している。そのフォルムや開花景観からドライガーデン用のキセロフィルとして多様に導入したいところであるが、耐寒性に劣る種類が多く難しい。一方、強健なアロエもあり、極細葉の木立性の笹アロエ(A. ciliaris)は耐寒性、耐暑性を合わせ持っており、ガーデン用にこうした強健種を今後開拓していくとよい。



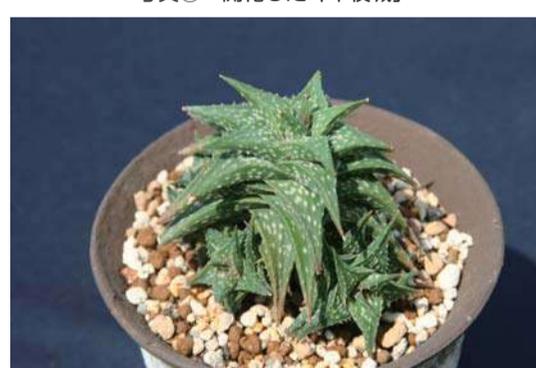
写真② 昭和8年京楽園発行の仙人掌名鑑に「千代田錦」の名が見られる(筆者所蔵)



写真③ 戦前の名鑑にも見られた千代田錦



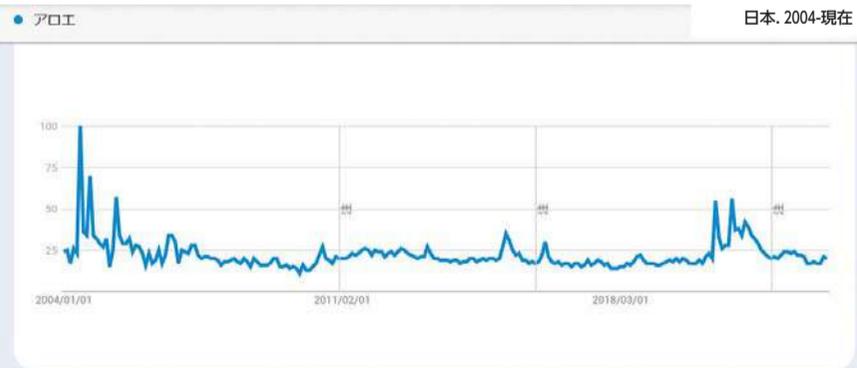
写真④ 開花した「不夜城」



写真⑤ 最小級のアロエ「ディスコイグンシー」



写真⑥ 斑模様の改良種「スーパースノーホワイト」



ゲーグルトレンド機能のみ「アロエ」「アロエ・ベラ」の用語の動向(2004年~現在)

アンケートで回収した会員数の推移予測

| 支部会員数 | | | | ブロック会員数 | | | |
|--------|-----|-----------|------------|---------|----|-----------|------------|
| 支部 | 現在 | 来期 (R6~7) | 来々期 (R8~9) | ブロック | 現在 | 来期 (R6~7) | 来々期 (R8~9) |
| 熊本 | 9 | 9 | 9 | 東日本 | 62 | 47 | 43 |
| 大分 | 1 | 1 | 1 | | | | |
| 長野群馬新潟 | 4 | 4 | 4 | | | | |
| 北海道東北 | 3 | 2 | 2 | | | | |
| 埼玉 | 11 | 7 | 7 | | | | |
| 関西 | 11 | 11 | 7 | | | | |
| 茨城 | 7 | 5 | 5 | | | | |
| 鹿児島 | 3 | 3 | 3 | | | | |
| 中・四国 | 8 | 8 | 5 | | | | |
| 東京 | 9 | 7 | 6 | | | | |
| 栃木 | 5 | 5 | 4 | | | | |
| 愛知 | 20 | 14 | 12 | | | | |
| 福岡 | 14 | 10 | 8 | | | | |
| 三重 | 6 | 2 | 2 | | | | |
| 神奈川 | 14 | 11 | 10 | | | | |
| 千葉 | 9 | 6 | 5 | | | | |
| 合計 | 134 | 105 | 90 | | | | |

支部を中心とした運営

- | | |
|---|---|
| メリット | デメリット |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックの活動が無くなる ・ブロックの役員を選出しない ・会員への伝達が支部長経由でしやすい | <ul style="list-style-type: none"> ・人数が少ない支部は支部長が多く回ってくる ・幹事の選出方法が難しい ・支部長の負担が増える ・支部が無くなった場合新規会員を入りにくい |

ブロックを中心とした運営

- | | |
|--|---|
| メリット | デメリット |
| <ul style="list-style-type: none"> ・合併を繰り返す行わない ・役員を回転速度を抑えられる ・全国との連携がとりやすい ・ブロックでの活動を継続できる ・支部のない地域で新規会員を獲得しやすい | <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックの役員と全国の役員を選出しないといけない ・会員数の多いブロックでは情報の伝達が難しい |

幹事・支部長合同会議の資料の一部を開示します。

部長の負担軽減のため幹事支部長合同会議は今後行わないこととした。
また、総会開催都市を固定する案について議論し、2年に1回を東京で開催し名古屋、大阪、福岡を順に開催都市とする案に賛成を頂いた。

そして、今後会員の減少が予測される中国・四国ブロックに関しては、他ブロックと合併するかどうか議論した。どのブロックに所属するは検討中とのこと。各支部長にも概ね賛同頂いた。
最後に、総括として福島



九州地区の会員さんは九州北部豪雨の直後にもかかわらず、リモートで参加してくれました。
部会長より、「皆様が活動しやすい形をとれるように今後も運営していきたい。総会開催の件についても、皆様の負担を軽減して提案させていただきます。今後ともご協力をお願いしたい」との挨拶で閉会した。今後、青年部会総会の議題にして会員さんに確認していきたいです。

特集 植木類に有害する外来病害虫・東京周辺の事例⑭

カシナガの誤爆!

樹木医 小林 明

物騒なタイトルで驚かれますが、中間報告的に紹介しても構いません。猛暑が残り今年8月下旬、同僚の樹木医からこれまでの常識を疑う情報がありました。同樹木医によれば、サクラ類に侵入した後、にじみ出た樹液ヤニの中で溺死したキクイムシの成虫を捕獲し、東京都の研究機関に持ち込んで調べてもらったところ、通称「カシナガ」、カシノナガキクイムシだっただけのことです。カシナガはブナ科のコナラやクヌギ、アラカシ、シラカシ、マテバシイなどの樹木に集団で侵入し、ナラ枯れを発生させる害虫です。それがサクラ類に侵入したことから「誤爆」とした次第です。さらに、困惑する事象もあって未解明な事例ではあるものの、東京区内で



写真1 カシナガによるサクラ類への誤爆・高尾山



写真3 樹液の中で溺死したカシナガ (佐野樹木医提供)



写真2 カシナガが侵入したシラカシ (右) とヤマザクラ (左)

「被害の事例」 観察した後、三重県在住の樹木医にこのことを伝えたところ、同県下では10年以上前に同様の事象があり、カシナガがサクラ類からにじみ出た樹液の中で溺死した写真を送ってくれました(写真3)。宝石の琥珀の中にはまれに昆虫が閉じ込められたものがあり、それに似ています。高尾山の誤爆されたサクラ類は、

カシナガは樹液の中に溺死していたということで、成虫を捕えるため樹液を採取して持ち帰り、コーヒーマシンで濾して探してみましたが見つかりませんでした。8月下旬になると成虫の捕獲には、遅いのかも知れません。観察した後、三重県在住の樹木医にこのことを伝えたところ、同県下では10年以上前に同様の事象があり、カシナガがサクラ類からにじみ出た樹液の中で溺死した写真を送ってくれました(写真3)。宝石の琥珀の中にはまれに昆虫が閉じ込められたものがあり、それに似ています。高尾山の誤爆されたサクラ類は、

誤爆の発生現場は、都心から車で1時間ほどの位置にある明治の森高尾園定公園の山麓で、知らせてくれた樹木医と観察してみましたが、被害は経済的な損失を伴う場合に使われますが、その点ではどの程度の損失になるか今のところ不明です。また、高尾山麓の登山道に沿って数十本ほどのサクラ類を見ただけのためサクラ類の被害の全容も不明です。誤爆されたサクラ類は、ヤマザクラとカスミザクラでした。ブナ科の樹木以外への集団攻撃は、いわば、教科書に書いてある定説と違ふ事象です。東京都内で



写真5 カシナガによる樹液とよく似た樹液垂れ・ソメイヨシノ 2023年9月



写真4 ヤマザクラへのキクイムシの食害痕・川崎市内

「困惑の事象」 カシナガがサクラ類に侵入している状況を見て、困惑することがありました。現場では、染井吉野にも同様の事象をしばしば見えています。以前であれば、サクラ類に加害するキクイムシ類と記載できましたが、今年は、キクイムシ類の中にカシナガも含まれるかもしれず、さらにコスカシバの成虫を捕獲して真犯人を同定することが宿題になりました。困惑で終わる紹介で恐縮です。今後、成虫を捕獲し、種類や特徴などが分かれればお知らせしたいと思えます。

詳しいことは不明ですが、カシナガは侵入したものの樹液とともに押し出されたり溺死してしまったか、サクラ類にはナラ枯れのような枯死した葉や枯枝がありませんでした。この点がナラ枯れと違って話題になるような被害とは言えず、あまり知られていないのではないかと感じています。今年もサクラ類の街路樹診断を行っている中で、ナラ枯れが周辺に発生している現場では、染井吉野にも同様の事象をしばしば見えています。以前であれば、サクラ類に加害するキクイムシ類と記載できましたが、今年は、キクイムシ類の中にカシナガも含まれるかもしれず、さらにコスカシバの成虫を捕獲して真犯人を同定することが宿題になりました。困惑で終わる紹介で恐縮です。今後、成虫を捕獲し、種類や特徴などが分かれればお知らせしたいと思えます。

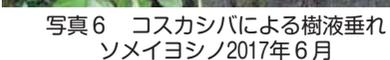


写真6 コスカシバによる樹液垂れ ソメイヨシノ2017年6月

連載「西欧自然環境保全の旅」第4回

イギリスにおける生物防除の研究

滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授 上河原 献二



◆プロフィール
1984年東北大学法学部卒業、環境庁入庁。
2013年より滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授として、環境法・環境政策を教える。現在は、侵略的外来生物管理法制度など自然保護法制度の国際比較を中心に研究。

今回は、侵略的外来生物管理のためイギリスが力を入れている技術開発、生物防除 (biological control) についてご紹介します。その技術開発の対象となっているものの一つがイタドリです。イタドリは、原産地である日本では目立たない植物ですが、世界自然保護連合 (IUCN) の「世界の最悪の侵略的外来生物100」の一つに選ばれています。もともとは、19世紀にシーボルトが園芸目的で日本から持ち出して、そこからさらにイギリスに輸入されたものです。残念なことに今では、イギリスで最も深刻な影響を与えている侵略的外来植物の一つとなっています。そのため、イタドリは、イギリスの法律の規制対象となっていて、売買が禁止されているほか、管理下から逸出させることは違法と解釈されています。また、近隣に被害を生じている場合には、2014年に成立した法律に基づいて、自治体から駆除を命じられることもあります。ブリストル市内でイタドリを放置して市からの駆除命令に従わなかった不動産業者が、2018年に18000ポンドの罰金判決を受けています (BBC 2018年12月6日)。

不動産の取引・開発には、イタドリの駆除が重要になります。例えば、2012年のロンドンオリンピックの会場は、元々長く放置されていた場所で、そこにイタドリが繁茂していたので、駆除しなければなりません。農薬散布、機械式除去などを行った経費は、7000万ポンド (88.2億円 (1ポンド126円換算 (2012年当時))) を要したそうです。更にイギリス全体では、年平均1.6億ポンドから2億ポンドかかっていると推計されているとのことです (M. Wilson, Financial Times, 2016年3月18日)。

イタドリの管理のため、2001年から、環境省などが費用を出して、研究機関 (CABI) が生物的防除方法の開発に取り組んでいます。6年間かけて200種の候補の中から選ばれたのは、日本産のイタドリ

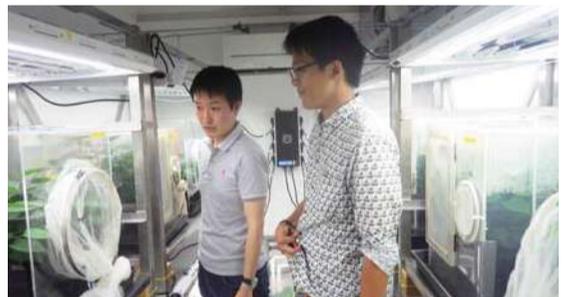


写真1. CABI 実験室内のイタドリと黒瀬博士 (左) 2016年上河原撮影; 右の人物は稗田さん (現豊橋市自然史博物館学芸員)

マダラキジラミ (Aphalara itadori) でした。まずイタドリ以外には寄生しないことを確認して許可を得て、2010年から野外試験がイギリス国内で始まりました。しかし、その系統は長期間定着できる可能性は弱いことが分かりました。そのため、2019年に再度日本における調査を行って新しい系統が選ばれました。この系統について、許可を得て野外実験が行われ、その結果の評価が進められています。また、イタドリの葉に感染する斑点病菌についても、環境省の許可を得て、屋外試験が行われています。この斑点病菌については、将来的には企業と協力して、副作用のない農業のような形での提供が構想されています (CABI 2022)。イタドリに対する生物防除の研究に取り組んでいるのは、九州大学大学院生物資源環境科学府出身の黒瀬大介博士です (写真1.)。

CABI は、国際協定に基づく国際研究機関で、50ヶ国が参加しています。侵略的外来生物管理とそのための生物防除の研究は、CABI の主要な事業です。イングランドにおける CABI の研究拠点は、ヒースロー空港の南西方向に位置する静かな大学町の郊外にあります。外観は、お屋敷のように見えます (写真2,3.)。ここでは、ほかにもオニツリフネソウ (写真4) など5種の侵略的外来生物に対しての生物防除方法の開発も進められています。生物防除の実施については、導入候補の天敵が、駆除対象の侵略的外来生物以外に寄生しないこと (宿主特異性) を確認することなど、国際的に受け入れられた手順が作られています。その手順に沿って、イギリスでは環境省が、屋内・屋外・野外での試験の審査と許可を行っています。CABI は、大規模に拡散した侵略的外来植物を、機械や農業によって管理するには、膨大な費用がかかるので、手順に従った生物防除の技術開発は合理的であると勧めています。また最近公表された侵略的外来生物管理の国際評価報告書 (IPBES 2023) でも、その有効性が指摘されています。私は、日本も、侵略的外来植物管理のための生物防除の導入を検討すべき時期に来ていると思います。



写真2. CABI の入り口 (於 Egham, England) 2022年上河原撮影



写真3. CABI の事務所棟 (於 Egham, England) 2022年上河原撮影

参考文献:

IPBES (2023) Summary for policymakers of the thematic assessment of invasive alien species and their control of the Intergovernmental Platform on Biodiversity and Ecosystem Services.



写真4. CABI 実験施設内のオニツリフネソウ 2016年上河原撮影

素描挿話。

～すてきな花達に魅せられて

⑩イロハモミジ

小岩井農牧(株) (岩手県) たるさわ ただし 足澤 匡

「イロハモミジ *Acer palmatum*」は、ご存じの通り、カエデ属の落葉広葉樹ですが、「ヤマモミジ」「オオモミジ」、この3種類をちゃんと分類できていますか? 赤く紅葉するから、果実が上に付くから、葉が小さいから、なんとなく、ではなく、ある程度、理論的に……。オオモミジは鋸歯 (葉の縁のギザギザ) が細かい単鋸歯なので、問題なく分かると思いますが、イロハモミジとヤマモミジは共に重鋸歯 (大きなギザギザに小さなギザギザが重なる) なので……。イロハモミジは、大小の鋸歯が規則正しく並び、葉の裂片の鋸歯が左右対称になっています。ヤマモミジは、鋸歯が規則正しく並び、左右も非対称、欠刻の重鋸歯なのです。ただ問題なのは、それぞれの雑種が存在することです。また、枝変わりも多く、一枝だけでは判断できない個体もあり、やっぱり難しいですね。

また、この3種類は日本に自生しますが、分布はそれぞれ違います。イロハモミジは、本州の福島以南、四国、九州の主に太平洋側です。オオモミジは、イロハモミジの自生地福島以北、北海道の太平洋側を追加した範囲です。ヤマモミジは、北海道、本州 (島根～青森の日本海側) に自生しています。私が住んでいる岩手県には、ヤマモミジとオオモミジが自生していますが、私が働いている小岩井農場内には、イロハモミジも出現します。「岩手植物の会」で話題が上がったことがあるのですが、「隔離分布?」ではなく、人為的な植栽だったので。弊社の2代目当主である岩崎久彌は、従業員のために、サクラとモミジをそれぞれ8,000本、関東から持ってきて農場内に植えたという記録が残っています。そのイロハモミジの子孫が山林に逃げ出し、しっかりと根付いているのです。

ちなみに、属名の「カエデ」は、「蛙の手」に似ることが由来で、「モミジ」は、染料の発色がよくなる「揉み出づ (もみいづ)」が語源です。さらに、イロハモミジは、7列の葉を「いろはにほへ」と数えたために名付けられ、京都の高雄が紅葉の名所であったために、タカオモミジ、タカオカエデ、他に、コモミジ、モミジ、など、モミジの代表として古から親しまれてきました。

そんなことより、APG、遺伝子による植物の分類が進み「カエデ科」が無くなってしまったことは、誠に残念で仕方ありません。「ムクロジ科」には、特に恨みがあるわけではないのですが、「カエデ科」の再興を心からお祈りしております。いろいろと書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。

